

第 38 回研究大会プログラム

1. 日程

◎第 1 日 9 月 12 日(金) 15:00~17:00 理事会 (センター棟 412 号室)

◎第 2 日 9 月 13 日(土)

10:30 ~ 11:30	11:30 ~	12:20 ~ 12:50	13:00 ~ 14:30	14:30 ~ 15:00	15:00~16:25 休憩 (展示閲覧) 20 分 16:45~17:40			18:00 ~ 20:00	
情 報 交 換 会	受 付	総 会 賛 助	特 別 講 演 会 員 展 示	写 真 撮 影 展 示	休 憩	研 究 発 表 I			懇 親 会
						[1]	[6]	[1 1]	
						[2]	[7]	[1 2]	
						[3]	[8]	[1 3]	
						[4]	[9]	[1 4]	
賛 助 会 員 展 示 (3 0 4 号)			[5]	[1 0]	[1 5]				

◎第 3 日 9 月 14 日(日)

9:30~10:25 休憩 (展示閲覧) 20 分 10:45~11:40			11:40 ~ 13:00	13:00 ~ 14:30	14:30 ~ 14:50	15:00 ~ 17:00
研 究 発 表 II			昼 休 み	フ ォ ー ラ ム	閉 会 行 事	サ ー ク ロ ウ ン C O C E T
[1 6]	[2 0]	[2 4]				
[1 7]	[2 1]	[2 5]				
[1 8]	[2 2]	[2 6]				
[1 9]	[2 3]	[2 7]				
賛 助 会 員 展 示 (3 0 4 号)						

研究発表 I (4 1 6 号室)

[1] RAMBO Eric (津山)

Using the Tsuyama College "Technical English" textbooks: A Case Study

[2] ISHIHARA Mari(福島)

"A Report on Teaching English Presentation for Second Year Students and Advanced Course Students"

[3] 渡辺眞一(北九州)

カンタベリー大学 ESOL 授業の様子 — イギリス在外研究還流報告を兼ねて —

[4] 阿部恵、吉田雅昭、山本歩(八戸)

海外研修が学生に及ぼす教育的効果 - P B L 型研修を通じて -

[5] MOANANU Charlton(富山・射水C)

Motivating L2 learners in the EFL classroom

研究発表 I (405号室)

[6] 久保田佳克(仙台・広瀬C)

多様なリーディング活動がどのように語彙習得に貢献するか

[7] 瀬川直美(木更津)

COCET2600 を活用した語彙力強化のための学習方法

[8] 菊池秋夫(八戸)

八戸高専1年生クラスにおける語彙学習・読解学習の助けとなるワークシートの活用

[9] 土田泰子、大湊佳宏、占部昌蔵、大森理聡、米崎啓和、木村博子(長岡)

長岡高専における英語多読実践と教育効果に関する研究

[10] 服部真弓、大森誠(松江)

多読読書傾向を探る - 多読授業の効果を高めるために -

研究発表 I (414号室)

[11] 青山晶子(富山・本郷C)

「専門英語」に必要とされる文法項目の一般英語における位置づけ

[12] 鳥居孝栄(福島)

aim, goal, objective, target の対照意味分析

[13] 森和憲(香川・宅間C)

香川高専詫間キャンパスにおける外部試験結果を基にした授業カイゼンの試み—GTEC, TOEIC, TOEIC Bridge の結果を基に

[14] 藤井教馬(沼津)

沼津高専における英語学力の変遷と入試改革による影響—B.A.C.E./TOEIC Bridge/TOEIC の結果をとおして—

[15] 太田伸子(石川)

英語教育環境の変化と高専でのインターアクションについて

研究発表 II (416号室)

[16] TAQUET David(函館)

Faculty Development: iPad classroom integration

[17] 八鳥吉明、大野佳代子(群馬)

テキスト英単語の焦点化と Web 閲覧環境の構築

[18] 大谷浩(北九州)

動画配信による授業がもたらす可能性—反転授業ではないけれど

[19] 武田淳(仙台・名取 C)

反転授業の導入で、変わること、変わらないこと

研究発表Ⅱ（405号室）

[20] 高越義一(富山・本郷C)

オーラルアプローチによる英語授業の改善（1）

[21] MARSH David (和歌山)

Using a video camera to teach presentation skills

[22] 西原雅博(富山・射水 C)

高等専門学校における異文化理解教育の授業づくり

[23] 石貫文子(佐世保)

学習者オートノミーに向けた TED talks を利用した英語学習

研究発表Ⅱ（414号室）

[24] 奥崎真理子(函館)

英語の授業に実践できる呼吸トレーニングの開発

[25] 安木真一(津山)

高専英語授業におけるスピーキング指導の工夫—高校名人教師の分析をもとにして

[26] COOPER Todd, TSUKADA Akira, NARUSE Yoshinori, MATSUNAGA Tomoki,

KOIZUMI Atsushi (富山・射水)

Teaching Perfect Pronunciation or Productive Communication: utilizing SR technology in the Kosen
EFL classroom

[27] 嵯峨原昭次(鹿児島)

学生主体の英語部の活動（鹿児島高専課外活動の一例）



発表時間：20分

予鈴：開始後15分

終鈴：20分

質疑応答：5分

*発表の間に5分の移動時間を設けています。

2. 情報交換会 9月13日（土）10:30～11:30（センター棟416号室）

司会：竹田恒美(東京)、小澤志朗(長野)

テーマ：プレコンの運営と高専機構・連合会の動き

3. 総会 9月13日(土) 12:20~12:50 (センター棟 416号室)

- ・平成25年度の活動報告及び平成26年度の活動計画
- ・平成25年度の決算報告及び26年度予算
- ・新年度人事、その他

4. 特別講演 9月13日(土) 13:00~14:30 (センター棟 416号室)

講演：金谷憲先生

演題：『英語定着への現実的アプローチ』

講師略歴：東京大学大学院人文科学研究科修士課程、教育学研究科博士課程及び米国スタンフォード大学博士課程を経て(単位取得退学)、32年間、東京学芸大学で教鞭を執る。現在、フリーの英語教育コンサルタントとして、学校、都道府県その他の機関に対してサポートを行っている。専門は英語教育学。研究テーマは、中学生の句把握の経年変化、高校英語授業モデル開発など。全国英語教育学会会長、中教審の外国語専門部会委員などを歴任。1986年より3年間NHK「テレビ英語会話I」講師、1994年から2年間NHKラジオ「基礎英語2」監修者。著書に、『英語授業改善のための処方箋』(2002、大修館書店)、『和訳先渡し授業の試み』(2004、三省堂)、『英語教育熱』(2008、研究社)、『教科書だけで大学入試は突破できる』(2009、大修館)、『高校英語授業を変える!』(2011、アルク)、『高校英語教科書を2度使う!』(2012、アルク)、『高校英語教育を整理する!』(2013、アルク)など。

5. 賛助会員展示 9月13日(土)・14日(日) センター棟 304号室

今年度のコセット研究大会は、次の賛助会員の皆様のご支援を得て開催されます。

大会期間中、賛助会員各社の教材や書籍等の展示を行っています。休憩時間を利用して、ぜひご覧いただきますようお願いいたします。

(株)アルク教育社

英語運用能力評価協会 ELPA

(株)カシオ計算機

(株)桐原書店

(財)国際ビジネスコミュニケーション協会

小学館/(株)ネットアドバンス

(株)成美堂

チエル株式会社

(株)南雲堂

ブリタニカ・ジャパン(株)

(株)HOYA サービス

(株)リアル・イングリッシュ・ブロードバンド

4. 特別講演 9月13日(土) 13:00~14:30 (センター棟 416号室) 発表要旨

『英語定着への現実的アプローチ』

東京学芸大学名誉教授

金谷 憲

昨今、グローバル化をキーワードとして英語教育に関する新たな政策などが次々に提言されている。こうした状況にあって、中には実現可能性が疑問である提言も含まれている。

今回の講演では、英語を定着させるための実現可能なアプローチについてお話してみたい。その際、実現可能な目標と、その目標達成に必要な、実現可能な教育体制に分けてお話をするつもりでいる。

現実的な目標

目標については、今回の講演では2001年にELEC(英語教育協議会)のプロジェクト・チームが行ったCrossroad政策提言を、実現可能性のある現実的提言として改めて紹介する。この提言にもられている達成目標は、高校卒業時に英検3級の取得をめざすというものである。私はこれが、国民全体が目指すべき目標として実現可能なものだと考える。

現実的な方法

目標の実現性とともな問題なのが、教育方法、教育システム(授業時数、カリキュラムなど)への提案、批判である。昔から教育方法の改善に多くの改善策が示されてきているが、未だに批判が絶えない。教育現場は、苦悩しながらも改善を模索してきている。しかし、いまだに学校英語教育のシステムに欠けているのは、「繰り返し(復習)」と「発表」という2つの要素だと私は考える。

外国語学習は、今日習ったことを明日使えるようになるものではない。何度も異なる形でその言語に触れ、そして使う練習をすることによって、長時間かかって少しずつ身につくものである。繰り返し接し、繰り返し使う機会をどのようにして創出するかが長年の課題である。

講演では、現在行われている中高での試みをいくつか紹介し、皆さんと一緒に現実的な目標と、教育体制を考えてみたい。

6. 研究発表 I 9月13日(土)

会場 時間	416号室(4F)	405号室(4F)	414号室(4F)
15:00 ~ 15:25	[1] RAMBO Eric (津山) Using the Tsuyama College "Technical English" textbooks: A Case Study 司会: 中井大造(米子)	[6] 久保田佳克(仙台・広瀬C) 多様なリーディング活動がど のように語彙習得に貢献する か 司会: 畠山喜彦(一関)	[11] 青山晶子(富山・本郷C) 「専門英語」に必要とされる 文法項目の一般英語における 位置づけ 司会: 南優次(宇部)
15:30 ~ 15:55	[2] ISHIHARA Mari(福島) "A Report on Teaching English Presentation for Second Year Students and Advanced Course Students" 司会: 中井大造(米子)	[7] 瀬川直美(木更津) COCET2600を活用した語彙 力強化のための学習方法 司会: 畠山喜彦(一関)	[12] 鳥居孝栄(福島) aim, goal, objective, target の対照意味分析 司会: 南優次(宇部)
16:00 ~ 16:25	[3] 渡辺眞一(北九州) カンタベリー大学 ESOL 授業の 様子 — イギリス在外研究還 流報告を兼ねて — 司会: 森岡隆(和歌山)	[8] 菊池秋夫(八戸) 八戸高専 1 年生クラスにおけ る語彙学習・読解学習の助け となるワークシートの活用 司会: 武田淳(仙台・名取C)	[13] 森和憲(香川・宅間C) 香川高専詫間キャンパスにお ける外部試験結果を基にした 授業カイゼンの試み—GTEC, TOEIC, TOEIC Bridge の結 果を基に 司会: 種村俊介(岐阜)
16:25~16:45 展示閲覧(3F 304号室) 休憩(20分)			
16:45 ~ 17:10	[4] 阿部恵、吉田雅昭、山本歩(八 戸) 海外研修が学生に及ぼす教育的 効果 - P B L 型研修を通じて - 司会: 森岡隆(和歌山)	[9] 土田泰子、大湊佳宏、占部 昌蔵、大森理聡、米崎啓和、 木村博子(長岡) 長岡高専における英語多読実 践と教育効果に関する研究 司会: 武田恒美(東京)	[14] 藤井教馬(沼津) 沼津高専における英語学力の 変遷と入試改革による影響— B.A.C.E / TOEIC Bridge / TOEIC の結果をとおして— 司会: 種村俊介(岐阜)
17:15 ~ 17:40	[5] MOANANU Charlton(富 山・射水C) Motivating L2 learners in the EFL classroom 司会: 大谷浩(北九州)	[10] 服部真弓、大森誠(松江) 多読読書傾向を探る - 多読授 業の効果を高めるために - 司会: 武田恒美(東京)	[15] 太田伸子(石川) 英語教育環境の変化と高専で のインターアクションについ て 司会: 瀬川直美(木更津)

7. 懇親会 9月13日(土) 18:00~20:00 宿泊棟D棟9階 レストランさくら

恒例の懇親会を今年も開催いたします。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。(会費: 5,000円)

8. 研究発表Ⅱ 9月14日(日)

会場 時間	416号室(4F)	405号室(4F)	414号室(4F)
9:30 ~ 9:55	[16] TAQUET David(函館) Faculty Development: iPad classroom integration 司会: 井上英俊(明石)	[20] 高越義一(富山・本郷C) オーラルアプローチによる英 語授業の改善(1) 司会: 服部真弓(松江)	[24] 奥崎真理子(函館) 英語の授業に実践できる呼吸 トレーニングの開発 司会: 瀬川直美(木更津)
10:00 ~ 10:25	[17] 八鳥吉明、大野佳代子(群 馬) テキスト英単語の焦点化と Web 閲覧環境の構築 司会: 井上英俊(明石)	[21] MARSH David(和歌山) Using a video camera to teach presentation skills 司会: 服部真弓(松江)	[25] 安木真一(津山) 高専英語授業におけるスピー キング指導の工夫—高校名人 教師の分析をもとにして 司会: 青山晶子(富山・本郷C)
10:25~10:45 展示閲覧(3F 304号室) 休憩(20分)			
10:45 ~ 11:10	[18] 大谷浩(北九州) 動画配信による授業がもたらす 可能性—反転授業ではないけれ ど 司会: 森和憲(香川・宅間C)	[22] 西原雅博(富山・射水C) 高等専門学校における異文化 理解教育の授業づくり 司会: 中井洋生(鈴鹿)	[26] COOPER Todd, TSUKADA Akira, NARUSE Yoshinori, MATSUNAGA Tomoki(富山・射水) Teaching Perfect Pronunciation or Productive Communication: utilizing SR technology in the Kosen ELF classroom 司会: 阿部恵(八戸)
11:15 ~ 11:40	[19] 武田淳(仙台・名取C) 反転授業の導入で、変わること、 変わらないこと 司会: 森和憲(香川・宅間C)	[23] 石貫文子(佐世保) 学習者オートノミーに向けた TED talks を利用した英語学 習 司会: 中井洋生(鈴鹿)	[27] 嵯峨原昭次(鹿児島) 学生主体の英語部の活動(鹿 児島高専課外活動の一例) 司会: 奥崎真理子(函館)

発表時間: 20分

予鈴: 開始後15分

終鈴: 20分

質疑応答: 5分

*発表の間に5分の移動時間を設けています。



9. フォーラム 9月14日(日) 13:00~14:30 (センター棟416号室)

Foreign Teachers as Homeroom Teachers: A Round Table Discussion

司会：竹田恒美(東京)

Facilitators: HERBERT, John (明石), COOPER, Todd, and MOANANU Charlton(富山・射水)

Over the past 12 years, Kosens have hired at least 22 native speakers of English to teach EFL as full-time faculty members in colleges across Japan. Roughly half of these teachers have taken on homeroom teaching responsibilities, and the rest may have to do the same in the future. Therefore, in this round table discussion, the facilitators assume that every school represented in the audience may have a foreign English teacher as a Homeroom Teacher now or at some point in the future. And, the facilitators believe that a school's offer and a foreign teacher's acceptance of a homeroom teacher post carries with it a number of advantages and disadvantages, both of which are often overlooked. For this reason, this round table has been brought together to address and raise awareness of the pros and cons of having or being a foreign teacher in a homeroom teacher post. And, this round table provides all participants with an opportunity to share ideas – on how to make homeroom teaching more manageable for a foreign teacher – through productive discussion and audience interaction.

To that end, the questions below, followed by an open forum, will guide discussion:

1. How are homeroom teacher appointments and duties determined at your school?
2. What was your greatest fear about homeroom teaching before becoming a homeroom teacher? And, how have you dealt with that fear since?
3. What do you like and dislike most about homeroom teaching?
4. What expectations and limitations does a foreign teacher in a homeroom teacher post face?
5. What successful measures have been taken at your schools which might help foreign teachers make the transition into homeroom teaching posts?
6. How do the challenges of homeroom teaching compare to those of other job duties in Kosen?
7. What should foreign teachers be aware of before taking on homeroom teaching duties?
8. What should faculties know before giving homeroom teaching duties to foreign teachers?
9. How can having a foreign identity benefit a homeroom teacher?
10. How can having a foreign identity hurt a homeroom teacher?
11. How might foreign teachers handle grade reports more efficiently?
12. How might foreign teachers manage parent-teacher meetings more efficiently?

10. COCETサロン 9月14日(日) 15:00~17:00 (センター棟405号室)

2日間の大会を終えてなお「もっと語りたい」「もっと聞きたい」という会員の皆様のために、インフォーマルな雰囲気でのディスカッション、情報交換の場を設けました。個人で、グループで、自由に語り合しましょう。

*オリンピック記念青少年総合センター：センター棟配置図

